

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500107		
法人名	株式会社 やよい会		
事業所名	みどりの郷こんね		
所在地	大分県佐伯市弥生大字床木3番地1		
自己評価作成日	令和5年2月27日	評価結果市町村受理日	令和5年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail%2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490500107-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail%2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490500107-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府耆番館1F
訪問調査日	令和5年3月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に沿って入居者様により近いところから寄り添い1人ひとりのペースで穏やかにゆったりと過ごしていただけるよう取り組んでいます。入居者様らしさを失わずに自立支援実践の実践、居心地よく過ごせる穏やかな空間かつ第二の我が家と思って頂けるように職員同士でアイデアを出し合っています。入居者様にはなるべく自分の力を使っていたりしながら、できる事、やりたい事に目を向けたケアを行っています。施設周辺は緑が豊かで、すぐ近くに田畑があり、入居者様はご自分が働いていた時の様に地球の方が働いている姿を施設の方から見えています。歩きやすいアスファルトの中庭でゆっくり散歩をしています。中庭では、桜の季節はお花見をしておやつを食べます。また季節折々の木々が植えられ、花を見たり、ブルーベリー、柿の収穫も行います。施設内ではお正月、節分、ひな祭り、節句、運動会など毎月行事を行い、入居者様が日々の生活を楽しめるような雰囲気を提供しています。職員は入居者様が安心して日常生活が送れるように入居者様の性格、特性、趣味、嗜好、生活歴、ADL、BPSD、病歴などを理解した上で支援に取り組み感謝、尊重の気持ちを忘れずにコミュニケーションを取り、信頼関係の構築に務めています。さらにコロナ禍でも手紙、電話、窓越し面会などでご家族様とのつながりを大切にしています。共同生活の中でも1人ひとりにあったサービスを提供しています。入居者様には施設の仕事を一緒にして頂き、お互いに助け合っており、生きがいを感じていただけるような施設運営、環境作りをしています。職員の年齢は様々ですが関係が良好で笑顔あふれる明るい職場で働きやすいように意見を出し合っています。そんな職場環境だからこそ退職者も少なく、顔なじみが多いことで入居者様の信頼の維持につながっていると思います。

自然に囲まれ空気の澄み切った環境の中、車の騒音も聞かれず利用者を尊重しゆっくりとした時間のなか、日々の生活を過ごされています。職員も定着しており、働きやすい環境を備えています。利用者や職員が家族のように過ごすことができるグループホームです。医療・看護との連携が保たれ、地域包括ケアに取り組まれています。職員が話をしやすい環境を整え、利用者とのかかわりが深いことで、介護に携わる楽しさを感じられ、仕事への意欲、生きがいが離職防止に繋がっています。職員も研修等に積極的に参加され資質向上の取り組みが伺えます。常に利用者を第一に考え、心穏やかに今を過ごしている様子が見受けられる施設です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ユニットに掲示して目に見える様にしており、職員会議の際にも理念を唱和している。日頃より理念に沿ったケアが出来ているのか、介護の中で困った時に理念に沿っているのか、各自考えながらみんなで意見を出し合い入居者様のケアを行っている	理念は、施設内のわかりやすいところに掲示されており、申し送り等で唱和・ミーティングで共有し、欠席者の対応は記録回覧等で共有支援に活用されています。職員採用時、理念の説明を積極的に取り組みがなされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流が出来ていない。自治会に参加させてもらい、年数回の地区の清掃活動に参加している。区長さんが市報を持って来て下さるので最近の様子を報告している。イベントに必要な物品を地区の方が準備して頂いた。コロナウイルス感染拡大により以前行っていたお祭りが行えず、新たな地域との交流の在り方を模索している。	コロナ禍において、交流がスムーズに出来ない現状ではありますが、地域の情報を頂き職員を中心に行事に参加し、施設には外部の方は参加出来ませんが、行事に必要なものを作ってくれるなど、地域との交流の機会があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症の事や認知症や認知症ケアの事など情報は発信できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を行ったが、コロナウイルス感染拡大防止の為、書面開催が多かった。会議の委員の皆様には書面開催の際はアンケートを実施し意見を頂けるようにした。アンケート結果は会議の委員の方に送付しお知らせし、頂いたご意見を施設運営取り入れながら対応した。	感染予防の観点から書面開催ですが、2ヶ月に一回実施されており、イベント報告や施設の課題等報告し、意見を頂くなど双方向で共有がなされています。アンケートを実施・施設の運営状況を報告することにより、委員から意見を汲み取る機会があります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には佐伯市包括支援センターの職員の方に参加頂き、佐伯市からの連絡事項などを伝えていただいた。請求業務や書類作成など不明な点は佐伯市役所介護保険係に問い合わせをして連携を図った	行政の職員と法改正や制度など利用者支援をする中で必要なことは、お互い相談しやすい関係にあり、積極的に取り組みがなされています。地域ケア会議に出席し、常に情報の共有が行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止委員会より、身体拘束チェックシートにて入居者様に身体拘束を行っていないか確認や、振り返りを行っている。虐待防止の研修にて身体拘束の具体的な行為について理解し、ケアの実践をしている。	毎月の虐待防止委員会で、常にチェック、支援の中での身体拘束の事例がないか定期的に研修し、会議の場で不適切ケアがないか、現状確認するなど職員間で、意識の共有に取り組みがなされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、隣接施設と合同で虐待防止委員会を開催して、虐待行為がないか振り返りを行っている。また、委員会より月間目標を策定し、日頃から入居者様へのケアや対応について注意する様にしている。虐待防止の勉強会を行い、虐待の内容について勉強している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の方が成年後見人制度を利用されているが勉強会などで各職員へ学ぶ機会が持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約を交わす際には、契約書の内容に加え、契約を解除する際にはどうしたら良いかなど、ご家族様に不安や疑問が無いように丁寧に説明を行っている。説明が終わった後にも分かりにくいところがなかったか質問したり、不安に思う事がないか伺う様になっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をする際にご家族様へアンケートを行い、また、無記名でのアンケートを実施してできるだけ忌憚ない意見を頂ける様にした。頂いた意見はご家族様に書面にて報告している。また、用事で来設、電話にてお話をする時にも話を伺った。頂いた意見は本部に相談して対応を行った	日常会話の中から、利用者の意向を汲み取り家族の訪問の際や介護計画の更新時に意向・要望の確認を行い、アンケートを実施し、意見・要望が伝えやすい環境作りに取り組みがなされ、地域包括支援センターなど、外部での苦情・相談を表せる等説明されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議が行われた時には、支援方法や必要物品の購入、修理箇所など意見を聞いている。都度、業務の変更があったり、修理や物品の購入の希望があり対応を行った。また、本社への意見や質問、要望などもいつでも受け付けて聞いている。本社へ伝えた意見や要望などは施設長や管理者から返答を伝えている	ミーティング等で、職員の意見や要望を汲み取り、支援に取り組まれ会議の場で職員は自由に意見を述べることができ、物品の購入や異動の希望等個人面談についても、相談が出来る態勢作りがなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務を組む際には休み希望を取り、希望の休みがなるべく取れるように柔軟な対応を行っている。有給やリフレッシュ休暇が取れるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修のお知らせをして職員の研修参加を支援している。研修参加希望があれば勤務の調整をしている。隣接施設と合同で施設内研修を行っている。年間の研修計画を決め、計画に沿って研修を行っている。本部に研修費用を補助する制度がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐伯市のグループホーム協会に参加している。分からない事など他グループホームに質問する事はあるが、定期的な交流は出来ていない		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談を受けた時には、ご家族様の承諾を得た後、ご本人様に直接会っている。お会いした際には施設の事を説明し不安や疑問のない様にすると共に関係作りに努めている。また、施設見学に来て頂いた時も、施設入所に対して心配な事になるべく無いように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談を受けた時には、ご家族様と電話や直接会って、施設の概要、料金、持ち物など説明をして不安や疑問のない様にすると共に、関係作りに努めている。出来るだけ施設見学に来て頂き、当施設の事を知って納得頂きながら関係を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談を受けた時には、ご本人様、ご家族様と直接会って、希望などを伺う中で、どの様なサービスが必要なのか考え話を進めている。ご本人様、ご家族様の希望に応じて他施設のパンフレットをお渡ししたり、サービス内容の違いなどを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の身体状況に応じて施設内で出来る事を一緒に行っている。行って頂いた後には感謝の気持ちを丁寧に伝えていく。入居者様と一緒に過ごす中で、職員が料理方法や、子育てなどで困った時などアドバイスを頂いたり、生活の知恵を教えて頂いている。人生の先輩として敬意を常に持ち接して教わる姿勢のもと関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護をする中でどのような対応をしたらよいか迷った時には、まずご家族に相談をしてアドバイスを頂いている。若い頃の事を思い出して下さったり、物品の購入など沢山の協力を頂いている。また、コロナウイルス感染拡大の為、面会が出来ず、会えない時期が続いたので不定期ではあるが、写真にお手紙を添えて報告を行った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙が中心だが、友人の方、遠方に住むご家族様、親族の方と直接お話していただき、関係が途切れない様になっている。回数としては少ないのが現状	コロナ禍において外出や施設への立ち入りが、制限されている状況ではありますが、家族や知人の人には関係がなくならないよう対応され、入所前のかかりつけ医の受診・住診等、馴染みの人や場所を忘れないよう支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者様の性格や、入居者様同士の人間関係を把握し、席や場所を工夫しながら入居者様同士が楽しく、心穏やかに過ごせるように配慮している。また、趣味活動やレクレーションなどを通して新たな入居者様との関わりが持てるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所された入居者様についてはご家族様や住み替え先の職員の方に様子を聞かせていただいている。ご家族様の支援は行っていない				
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や思いを把握するため、日頃より会話をしたり、表情や行動を観察している。本人様より把握が難しい方についてはご家族様に相談しながら希望や思いの理解に努めている。	利用者・家族から意向や生活歴の確認を行い、言葉にしづらいことを表情・動きから察し、利用者が安心・穏やかになる対応に取り組まれ、食事等好き・嫌いを無理に進めず、利用者に合った好みで、生活に楽しみを取り入れ支援がなされています。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に、ご家族様に生活歴、趣味、馴染みの物、場所、今まで入所に至るまでの状況を聞いている。また、担当ケアマネジャー、病院のソーシャルワーカーから自宅、入院中などのサービスの利用状況等を聞き把握している				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	入居者様の1日の体調面、精神面、体の動き、表情、訴え、どの様に過ごしたかなど情報を集め、それを送りノート、連絡ノートなどに記載し情報共有している。入居者様に変化が見られた時にはその方がより良く生活ができるように職員で相談し、結果を記録に残している。				
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書を作成する時には、本人様、ご家族様の希望を伺い、頂いた希望や、意見を取り入れている。状況に変化があれば、現在のサービスの見直しを行い、今の入居者様に寄り添ったサービス内容になる様にしている方々と話をしたり、工夫をして計画書を作成している	利用者・家族・関係者と話し合い、職員の意見を取り入れ本人本意に計画書を作成され、状態の急変等はモニタリングを行い計画変更・見直しに対応し、医師・看護師と相談しながら、介護計画を作成されています。介護計画書は、利用者・家族等に同意・理解を頂いています。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人一人の記録の中で、1日様子、体調や精神面など様子の变化、変化に対して対応策の意見を出し合い、行ったケアやその結果を都度記録に残して情報共有し、ケアの統一を図っている。計画書の見直しの際にはその内容を活かして作成している				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要物品をご家族様によって買物をする。自費での体験入所など状況に応じて対応できるものは行っているが、できる事は限られているのが現状				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の訪問美容師さんより散髪をしていただいたり、佐伯消防署の方より避難訓練の際にご指導をいただいたり、地区の区長さんが市報や地域の情報誌を入居者様へ持って来て下さったり地域資源を活用しているが、地域資源の把握、活用は出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	見学や入所の際に、主治医を確認し、入所しても引き続き主治医は変更せず通院出来る事を説明する。受診には職員が付き添いを行い、普段の体調や、気になる症状を直接主治医に伝える事で体調管理を行っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっています。体調等の変化などから主治医変更を希望されることがあり、その時々に合わせて適切な医療を受けられるよう支援されています。主治医の先生と状況を共有し、定期的に連絡を取られ関係性を築かれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務しており、介護職員が入居者様の体調変化や、何かいつもと様子が違う時など、看護師に報告や相談を行っている。本人様用の頓服の服用、受診などの指示に沿って必要な看護や医療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した時には、施設でどのように過ごしていたのか生活の状況を書面にて詳細にお伝えしている。また、入院中には、地域連携室へ連絡し、相談員の方より入院中の様子を伺い連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に、ご家族様に意向を伺い希望書を作成し、ご家族様と方向性を合わせて対応している。重度化した場合、当施設での対応や設備、どのような身体状況まで受入が可能なのか説明を行っている。また、当施設で対応が困難になった時には、その前の期間よりご家族様の意向を聞きながら対応を行う事を説明している。隣接施設のサービス付き高齢者住宅や、協力施設である市内の特養の管理者の方と連携を図って対応している	入所の際、施設として出来る事を説明し、本人・家族と終末期に向けた支援を確認されています。早い段階から主治医・本人・家族・施設と話し合いを重ね終末期の過ごし方について、利用者にとって一番良い方向で支援できる体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修計画の中に救急時の対応があり、研修を行った。救急時のマニュアルがある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回佐伯消防署の協力を頂き、火災想定避難訓練を行って指導を行っている。水害に関しては、毎年、台風シーズンの前に隣接施設と合同で水害想定避難訓練を行っている。災害電伝言ダイヤルを活用し、各職員が録音、再生をして訓練を行った。今後も訓練を継続し、様々な災害の備えていく。地域の協力体制が今後の課題である	定期的な訓練を、消防署の協力を得ながら実施されています。災害時の避難経路・電話連絡・備蓄等、その都度施設全体で見直し、次回の訓練に生かしています。	今後の状況を見ながら、少しでも早く地域の方との協力体制が整う事を希望します。



自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の思いを大切にしながら、声かけや対応を行っている。人生の先輩である入居者様に尊敬の気持ちを持って日々接している。生活の様々な場面で羞恥心に配慮した対応を行っている。	常日頃から、利用者の気持ちに寄り添い、意思決定を自然に促すよう声掛けや職員全員で常に利用者の情報を共有し、体調やその時々のお気持ちに寄り添った支援に取り組まれています。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の会話をゆっくり傾聴し希望や思いを表現して頂ける様にしている。また、気持ちを表現しやすい様な声かけを行っている。入居者様の状況の応じて二者択一にして希望を伝えやすくしている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内の基本的なスケジュールはあるが、入居者様の希望や今まで過ごしていた生活を大切に、起床や食事など柔軟に対応している。時間帯や職員の数体制などで希望の添えない時もある		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを自分で整えたり、おしゃれを楽しんだりできる方は自由に行き行って頂いて見守っている。自分で行う事が困難な場合は、職員が化粧水、乳液をお渡したり、髪の手入れをしたり、整髪料をしたり、服を選んで頂いたり、入居者様一人ひとりに応じた、その方が気に入った身だしなみやおしゃれが出来る様にしている		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は本部が契約をした業者さんが作ってくれている。旬の食材を取り入れたり、季節のイベントの際には色とりどりの行事食を作ってくれ、目でも舌でも食事を楽しんでいる。栄養士より栄養が管理された献立が組まれているので多くの献立のリクエストに出来る事は難しいが、食べたい献立を作れるか検討、提供してくれる事もある。食事の準備や食事を一緒に作る事は出来ないが、食後お盆を拭いて頂いたり、入居者様の身体状況に応じて片づけを手伝って頂いている。	日頃から利用者の食べたい物や希望を聞きながら、少し時間がかかることはあるものの献立に反映されています。行事食は、味だけでなく目で見て、楽しんで頂けるよう充実させています。おやつレクは、準備から一緒に出来る事を手伝って頂き、工夫され取り組まれています。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量が把握出来る様に、ボードや記録用紙に摂取量を記載し、各職員が入居者様の摂取の状況が分かるようになっている。摂取量が少ない時にはジュースなどその方が好きな飲み物を提供したり、水分だけでなくゼリーやアイスなど工夫をして少しでも口に入れて摂取量が増える様にしている。また、嚥下の状態を把握し、キザミやミキサー、水分のトロミなど都度変更し、安全で美味しく摂取が出来る様にする。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自歯の方はしっかり磨けるように促したり、見守りを行う。義歯の方は自力及び介助で外し磨いている。義歯の方は週2回、義歯洗浄剤にて洗浄を行い清潔を保っている。状況の応じて口腔スポンジで口腔ケアを行う方もいて、入居者様の状況で対応を変化している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、それぞれ入居者様の排泄の習慣を把握できるように努め、チェック表を活用しながら排泄の声かけを行っている。入居者様の排泄の状況を把握した上でどのようなパット類を使用したら良いか検討している。なるべくトイレで排泄が出来る様に手すりの位置を変化させている。状況により2名で介助している。自力でトイレに行く方が分かりやすい様にトイレに張り紙をしている。	職員全員で、排泄チェック表を常に確認でき、処遇に反映されるよう体制を整えています。利用者のパターンや変化に常に気を配り、習慣に合わせた個別の支援に取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ではないが牛乳を飲んだり、その他の水分摂取、歩行運動、腹部マッサージを入居者様に応じて行っている。排泄チェック表を活用し、何日排便がないのかを看護師へ報告、連絡、連携して排便の薬を服用している。看護師より緩下剤服用の一覧表を作成して状況に応じて服用する事で排便を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間の中で希望があれば入浴対応したり、同性の職員の対応を行ったり、音楽を流す、入浴剤を使用する、入浴後保湿クリームを塗布するなど楽しんだり、ゆったりした気分が入浴出来る様にしている。入浴の時間帯や入浴を行う日が決まっており、午後や夜間は入浴を希望しても対応が出来ていないのが現状	入浴を気持ちよく、ゆっくり過ごしてもらえるよう工夫されています。職員全員が、利用者が好まれる環境づくりや入浴後のケア等、細かな情報を把握し支援に取り組まれています。	現在は、午前中の支援になっていますが、今後は状況を加味しそのほかの時間の対応が、出来るよう希望します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整えつつ、その日の体調、気持ちの状態、前日の睡眠状況などを考慮しながら、自室で臥床して頂いたり、ソファでゆっくり過ごして頂くように案内を行っている。夜間には、電気の明るさ、温湿度などにも注意し、安心して気持ちよく眠れるようにしている。夜間になかなか寝付けない入居者様には、温かい飲み物を提供したり、ゆっくりお話をして眠くなったなら自室へ誘導するなどの対応を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を服用する時には名前、日にち、何食後なのかを職員2名で声に出してチェックして入居者様へ薬をお渡ししている。薬が確実に服用できたか入居者様の傍で見守り状況に応じて介助も行う。服用後の薬の袋も残しておいて飲み残しや間違いないかチェックしている。入居者様の個人ファイルに処方箋がはさんであり服用中の薬が確認できる。また、薬が増える、減るなど変化があった時には職員の連絡ノートに記載し、情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様やご家族様より伺った、趣味、特技、生活歴などを参考にして、身体状況に合わせて施設内の仕事を行って頂いている。行って頂いた後は感謝の気持ちをしっかりお伝えして、次のお仕事を行って頂く意欲につなげている。また、好きな事、趣味も施設で出来る範囲で行って頂き、皆さんで楽しめる様にしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭や施設周辺を散歩する事が主な外出の支援となっている。コロナウイルス感染拡大のより施設の外に出る機会は受診の時になってしまったので、季節の花が咲いている所、景色がきれいな所など車で通過し景色を楽しんで頂く程度となっている	コロナ禍ということもあり、充実した外出支援とはいえないものの、その日の気分や体調等に合わせて近所の散歩や庭に出て季節を感じて頂いています。通院を利用して、少し遠回りし外の景色を楽しんで頂いたり、今できる範囲で工夫しながら外出支援に取り組まれています。	今後の状況を見ながら近所だけでなく、ドライブ等以前のように外出を楽しんで頂けるよう考えています。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様に協力頂きお金を持っている入居者様がおられるが、買い物などお金を使用する機会が殆どないのが現状。自動販売機などで買い物をした方はおられたが回数は少ない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より電話をかけたい、ご家族様より電話がかかってきて話したいと希望があったら、施設の電話にて会話をしている。定期的に手紙を書く事は出来ていないが、お孫さんが結婚する際にお祝いのメッセージを書いて頂いた事があった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が一緒に過ごしているホールは温湿度管理と換気に注意し、感染対策を行いながら居心地の良い空間作りをしている。入居者様より暑い寒いなど要望があれば一時的に対応を行っている。カーテンで眩しい光をコントロールしたり、音についてもなるべく大きな音をださないように注意を行っている。季節を感じていただける様に、季節に応じた展示を壁面を飾っている。	明るく、季節を感じる居室づくりや利用者が居心地よく過ごせるよう、家具の配置等に常に状況を把握し柔軟に対応できる体制を整えています。安全・安心に過ごして頂けるよう、温湿度管理・感染対策など様々な工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子、テレビなどは数か所の配置し、皆さんと一緒に過ごすスペースと、1人もしくは数人で過ごすスペースを作っている。いつでもなたでも過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際には、今までご本人様が大切にされていた物、使い慣れた物を持って来て頂きお部屋に設置して心機やかに過ごしていただける様にしている。ご家族様のお写真や手紙、贈り物などをお部屋に飾って家族の方のふれあいを大切にしている方もおられる。テレビが好きな方は自室にテレビを設置している。	利用者が居心地よく過ごして頂けるよう、家族の協力を得ながら居室づくりをされています。体調等を考慮し、必要な時は家族に協力して頂き、安全・安心に過ごせるための環境づくりに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっている。部屋には表札があり、自分の部屋が分かるようになっている。また、トイレなど場所も案内の張り紙をしている。ホールの廊下、トイレ、浴室など手すりが多数ついている。身体状況に応じて自室にもL字柵が設置している部屋もある。職員のサポートを受けつつも自分の力を使って移動、移乗が出来る環境を出来るだけ作っている。		